

班	講 評
21	<p>今回の課題研究は、テーマ自体が比較的シンプルなものであったと言えるため、全体として点数のバラつきはあまりなかった。その中でも点数が高い課題研究は、後述する形式面に不備がなく、また内容面についても以下の点に特徴がみられていた。テーマ1における「社会からの期待」では、監査基準において「不正を発見すること」が監査の目的とはされていないものの、課題研究では、昨今の状況等を鑑み、社会からは「不正の発見」が求められており、監査人はできる限りこの期待に応えるべき、という論述がほとんどであった。このため、具体的事例や文献等の情報を基に論述をしていた課題研究については、より説得力があるものとなっていた。さらに、2つ目のテーマが「10年後の会計士像」ということもあり、テーマ1とテーマ2をいかに関連付けて論じたかによっても説得力に差が出ていた。</p> <p>なお、初回の課題研究ということもあると思うが、形式面での不備も見られた。具体的には、表紙のチェック項目にチェックがない、ページ数の記載漏れ、誤字・脱字・漢字への変換漏れ、意味は理解できるものの主語と述語が一致していないもの、といったものである。ビジネスにおける文書は、その書類の性質によって程度の差こそあれ、作成にあたってのルールがある。またクライアントをはじめとする第三者に向けた資料を作成する場合は、その内容もさることながら、形式や体裁が整っているかどうかとも相手への印象という点で非常に重要である。このため、今後の課題研究においては、形式面においても外すことが無いように取り組んでもらいたい。</p> <p>全体として自分の考えを述べ、議論を展開していたのは良かったと思います。ただ、「社会から期待される役割」は何かという問いに対して、答えが不明確なものが散見された。主題となるその答えについて、なぜそう考えたのかという論拠についても全体として乏しいように感じます。今回のように問われていることがはっきりしているテーマについては、答え(なぜそれを会社が期待するのか)について議論を深めていくといいと思います。また、それに続く自分が目指すべき理想の会計士像についても、先述の会社からの期待との関連を明確にした上で論じていくといいと思います。</p>
22	<p>全体的に形式面で大きく問題となる点はなかった。内容面に関しては、公認会計士の使命及び期待ギャップと結び付けて論じる補習生が多く、公認会計士の社会から期待される役割や監査の質に対する新たな視点はほぼ無かった一方で、会計以外の側面での公認会計士としての役割について言及している論文もあり、講師に対して、気付きを与えてくれる内容のものもあった。</p> <p>多くの論文でAIについて言及されており、補習生のデジタルアシュアランスへの関心の高さが垣間見えた。</p> <p>10年後の自分が明確になっている補習生とそうでない補習生でアクションプランの具体性の程度に差があったように見受けられたが、補習生にはまず5年後になりたい自分を思い描き、目標を立てて謙虚に日々学び、会計士として、社会人として、大きく成長していただきたい。</p> <p>初回の課題研究のため、まずは担当する論文を一度通読して補習生全体のレベル感を把握した上で、再度熟読し、採点した。まだ経験が浅いこともあり、文章構成や論理展開に未熟なところも散見されたが、基本的には補習生それぞれ工夫、検討して書き上げた痕跡は認められた。課題内容は「会計士に期待される役割」と「10年後のビジョン及びアクションプラン」の2つであるが、どちらかに偏った論文が多かった。テーマを適切に把握した上で、バランス良く記述してほしい。一方、「10年後のビジョン及びアクションプラン」に関しては、複数人が熱い思いを記述していることは、運営委員として嬉しく思う。補習生には初心を忘れることなく高い意欲を持って業務に励んでもらいたい。</p>
23	<p>今回の課題研究は比較的論述しやすかったと思われるが、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①公認会計士が社会から期待される役割(「監査の質」を念頭に)</li> <li>②10年後どのような公認会計士になりたいか(上述の社会的役割を果たすために)</li> <li>③具体的なアクションプラン(10年後の会計士像のために)</li> </ul> <p>と3つのテーマと②③がそれぞれ前段を受けての内容となっていた。これらをいかに繋がり良く、かつ、バランスをもって論述できるかで点数に大きな差がついたと思われる。多くの課題研究が①の内容を大きく取り上げ、②③についてはさらっと終わらせていた。全体として何を問われているのかを考え、また、それぞれの繋がりやバランスをどのようにするのかといった構成をしっかり練ってから論述することが大事である。</p> <p>全体的にあまり良い出来ではありませんでした。一般論のみで「意見」が記載されていない論文、「意見が」記載されていても論理の飛躍がみられる論文などが多く、テーマをしっかり捉えて自身の意見を説明できている論文は非常に少なかったと思います。また、形式面の不備(漢字の間違い、表紙のチェック漏れ、ページ数の記載漏れ等)も散見されました。次回から提出前にしっかりとチェックして頂きたいと思います。</p>

24	<p>設問は「近年の不正事案を念頭に」、公認会計士が社会から期待される役割について考えを求めている。従って、(記載のレベル感はそれぞれだとしても)具体的な事案に対する言及も必要であり、「職業的懐疑心の発揮」は外せないキーワードだと考えます。</p> <p>監査の質を各自の視点から論じることができており、論文としての説得力があり、良かった。次にキャリアプランについても、自分の言葉でやりたいことと、その理由を明瞭に述べられていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマの趣旨を汲み取っていないものが多い。</li> <li>・その結果、一般論で終始しているケースや、単なる感想になっているケースが多い。</li> <li>・もっと参考文献をあたって課題研究を実施すべき。</li> </ul>
25	<p>今回のテーマでは、出題者の意図を読み取るのが難しかったのか、意図を上手く読み取っている課題研究が少なかった。意図としては、『最近の不正事例をきっかけとした会計士への風当たりの強さという題材をもとに・・・』であったが、不正事例に対する分析がしっかりとできている論文は少なかった。また、具体的なアクションプランの記載が出来ている論文も少なかった。課題研究であるため、しっかりと題材を分析し、具体的に論述できるようしっかりと研究するよう心掛けてほしい。最後に、初回ということもあり、形式面でも減点されている者が多かった。社会人として、提出前に見直し、誤字・脱字程度は指摘されないよう再確認して欲しい。</p> <p>前半部分は規則等の分量が多い論文が目立ったため、主に後半部分のプランがしっかりと考えられているかで採点した。特に難しい内容でなくあまり差がつかない論文となっている。</p>
63	概ね論点は外していなかったが、一方でより深く考察する姿勢はあまり見て取れなかった。
64	章立て等の形式面は、良好だった。